

令和6年度の教育活動等に対する学校評価書

令和7年4月1日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 高村 克彦

同 学校関係者評価委員会 委員長 宮本由里子

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○たくましさのある子
「やさしい心を育て、遊びの中で力をつけよう」
- 自己評価に対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ子	園内の自然環境に進んでふれさせる	B	○子どもたちから「だんごむし見つけよう」など声かけがあった時、一緒に探したり、ミミズを「見て見て」など見つけてきた子どもに「すごいね」など声かけをしたりして共感した。 ○てんとう虫やセミの抜け殻を探したり、花壇の花に水やりをしたりした。 ○朝の身支度に時間がかかる子や、寒くて室内遊びを好む子が多かったが、9時30分からは全員外へ出られるようにし、植えてある植物や虫に触れた。 ○園庭で育てている作物や植物を間近で見たり触れたりし、名前などを図鑑で調べたりした。	B	個人でお花や野菜を育てることなどを通して、園庭で自然を間近で見ることができていた。
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気付かせる	B	○夏はオクラ、冬はヒヤシンスなど、植物には季節によって違いがあることを伝えた（球根、種の違い）。日常生活の中で、空の青さ、雲のようすなど、保育者が感じたことを伝えてきた。 ○氷や霜柱をみんなで探したり、感触を楽しんだりした。 ○花の香りや野菜、木々の葉の様子を見て、季節の移り変わりを感じることができた。	A	毎日外で遊んでいることで、寒暖の気温の変化に対応できるようになっており、自然に親しむ機会も多い。
	子どもが見つけた自然の様子を保育に生かす	B	○だんごむしを見つけてきたとき、絵本を見せ、どんな虫か知らせた。また、かたつむりを見つけたときは、しばらく保育室で飼育して観察し、どのようなものを食べるかを見せた。 ○葉についていた青虫を飼育して、さなぎになり、蝶になる姿を毎日観察することができた。 ○雨水で固まった土を見つけ、パリパリと砕ける様子から、「クッキー」「おせんべい」に見立ててままごとを始める姿が見られた。 ○冬には霜柱を見つけたと教えてくれて、それを触ったり踏んだりして楽しむことができた。	A	内部評価の項目を見ると、園の職員が細かく子どものようすを見ていることがよくわかる。
	自然を生かした遊びを活動に取り入れる	B	○園外保育で見つけたどんぐりで、クリスマスの飾りを作った。 ○泥んこ遊びでは、家庭より着替えを用意してもらっていたので、泥水、砂の感触を体全体で楽しむことができた。 ▲秋に偏ってしまった。	A	自分たちで拾ってきたどんぐりを製作に使っているなど、四季を感じることでできる取組をしている。
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	B	○子どもたちは身体を動かすことが大好きなので、例えば発表会の取組では、上手にできたりやる気があったりする子どもたちには、さらに意欲的になるような声かけをした。 ○発表会では、体操もオペレッタも、自分の得意なことや一人一人の良さを生かして発表することができた。 ○無理な技はせず、子どもが自分でやりたいと思うものを決めて披露でき、上達できた。 ▲暑い中での練習だったので、やりたがらない子が見られ、見ているだけでも良いと伝えると、安心したようだったが、違った言葉かけやきっかけを考えてもよかった。	B	
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育をする	B	○年少なので、初めは難しかったが、成長するにつれ、自分の思い等自ら伝えるようになってきたので、個々の気持ちを他の子どもたちに紹介したり、よい意見を言った子どもの発言に共感し、保育に取り入れた。 ○会話の中で「○○したい」「○○に挑戦してみたい」などの話の内容を活動に取り入れていた。 ○会話や遊びの中でイメージを共有し、自分だったらこうするよ、などと話し、遊びをうまく展開することができた。	B	

	言葉の発達や言葉への関心を高めるような保育や環境作りをする	B	<p>○絵本を通して言葉の繰り返しを楽しんだ。当番活動の自己紹介で、一人で発言できたことを褒め、自信を持たせた。また、早口にならないよう、相手に落ち着いて話すことの大切さも助言した。</p> <p>○日にちの言い方、ものの数え方をその場に応じて伝えたり、黒板に書いて見えるようにした。</p> <p>○繰り返しの言葉や絵本を通して、まねして言うことで正しい言葉を伝えることができたが、月齢の差でなかなか難しい子もいた。</p> <p>○毎日日付を声を出して読み、「ついたち」「はつか」など、数字の読み方の種類について学んだ。</p>	A	日々の会話や毎日の日付けを声を出して読んでくれるので、自然と身につけやすい。
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさをたくさん味わわせる	A	<p>○家庭ではできない絵の具遊びを楽しんだ。様々な技法を行い、野菜スタンプでは野菜の切り口や香りにも興味を持たせた。</p> <p>○ブロックで作ったものを壊さずに飾っておき、次回の時にまた続けて遊べるようにした。</p> <p>○壁面製作では、絵の具を使ってダイナミックに表現できるように意識した。</p> <p>○廃材遊びを通して、頭の中で考えたものを表現する難しさや楽しさを知ることができたと思う。</p> <p>▲手で触れたり匂いを嗅いだりすることはできたが、製作以外で（自由遊びの時など）作ったり描いたりできたらよかった。</p>	A	今の時代では難しいだろうが、何かの工夫をしながらボディペインティングを復活させてもよいかと思う。
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ機会や遊びを大切にする	B	<p>○子どもたちが知っている遊戯の曲をかけ、自由に身体を動かすことを友達と一緒に楽しんだ。</p> <p>○朝の体操の後に体を動かす遊びを取り入れたり、クラスでも手遊びや音楽遊びをしたりしていた。</p> <p>○季節の歌や手遊びを数多く行い、音楽について触れる時間を長くした。</p> <p>▲リズム遊びなど、もう少し取り入れることができればよかった。</p>	A	毎年朝の体操を変え、行事ごとにダンスを工夫してよいと思う。
思いやりのある子	動物グループの活動を効果的に進める	A	<p>○1学期は保育者が子どもたちに声をかけ、子どもたち自身がどのように関わったらよいか考えさせるようにし、年長児は姉姉としての関りを学べるように配慮した。年中少児には、あこがれや優しくされてうれしい気持ちを持たせるようにした。</p> <p>○動物グループで集まると楽しい雰囲気になり、和みの時間となっていた。</p> <p>○皆で助け合って行うことができた。絵本の日では、感動して涙を流し、感想を言ってくれる子もいた。</p> <p>○1クラスしかないため（年中少）、他学年とのかかわりが良い刺激となった。</p> <p>○クラスや学年の違う子どもと進んで関わり、仲を深められた。</p>	A	兄弟姉妹関係は子どもそれぞれなので、動物グループで異年齢のふれあいができることはよいと思う。
	自由遊びの時間を通して、子ども同士がふれ合えるようにする	A	<p>○保育者が子どもたちと一緒に遊ぶ中で、なるべく保育者が主体になってしまわないよう配慮し、見守ることを重視してきた。時に子ども同士の遊びが効果的に進むような声かけを試みる。</p> <p>○運動カードやなわとびカードに取り組む日を決めたので、それ以外の日は思いきり友達同士で遊びを楽しめた。</p> <p>▲互いに色々な子に言葉をかけ、遊ぶ姿が見られたが、なかなか遊びに入れず、保育者と過ごす子もいた。一緒に友達を誘うが、上手くいく日が少なかった。</p>	A	
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に取り入れる	B	<p>○年少児だけでボール投げをしているとき、年中児がドッジボールをやっていると思ったようで、「入れて」と入ってきたので、一緒に遊んだ。ただ、年少児はまだドッジボールのルールがわからないので、そこは保育者が仲立ちをして、楽しくできるように配慮した。</p> <p>○年中少への年長の給食配膳のお手伝いを復活させて、交流の場を設けた。</p> <p>○すでに外遊びをしている中、年中長児を見て「自分もやってみたい」と、保育者と一緒に「仲間に入れて」と伝えたり教えてもらったりすることができた。</p>	B	
	子どもが絵本好きになるように、時間を確保したり環境を整えたりする	B	<p>○絵本を読むとき、落ち着いて見られるように自分の場所（座布団）を確保したり、友達同士でしゃべってしまう子は保育者が意図的に離したりして読み聞かせるようにした。すると、集中することができたようだ。</p> <p>○給食の後は絵本の時間にし、年長向けの国旗の本や探し物をする本なども用意した。</p> <p>○新しい絵本を用意し、たくさんの本を読むことができた。自主的に読みたいという子へ貸したり、一緒に読んだりすることができた。</p> <p>▲考えていたよりも絵本の時間を作ることができなかった。時間配分を考え、少しの時間でも有効に使いたい。</p>	B	絵本は十分に読んでもらっていると感じているが、職員の評価はもっとやりたいとのことなので、今後にも期待したい。
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	<p>○2学期後半頃から、子どもたちに全体、個々を通して「みんなだったらどうする、どうしたらいい」など考えさせることを行ったり、時に「○○ちゃんが困っているよ」などと呼びかけたりした。</p> <p>○率先して手伝いをしたり、困っている子を助けたりしている子には、褒めたりお礼を伝えたりすることで、クラス全体も自ら動けるようになった。</p> <p>○「困っている」「どうしよう」となっている子どもがいたとき、保育者が「助けてあげてほしい」「手伝ってあげて」と言葉で伝えてきたことでスムーズにできた。</p> <p>○困っている子がいたら、すぐに手を差し伸べる子が多く、誰かが助けるのではなく、全員でリーダーとして動いていた。</p>	A	その子に合った指導をしていると思う。

たくましさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	B	○友達の真似をしたり、教え合ったりする中で、個々の成長が見られた。 ○岩登りの足の置き方や、その他の遊具においても、手の使い方や体の動かし方を個々に伝えたこともあり、身についてきた。 ▲ルールのある運動遊び（しっぽとりゲーム、転がしドッジボール）が良いと思われた。3学期後半にもう少しやってみたい。	A	
	カードを利用するなどして、目標をもちやすくしたり、自ら運動しようとする意欲を高めたりする	B	○今年度は目標を達成して合格する子が多かったが、そうでない子も自らの目標に向かって取り組む姿が見られた。 ○カードを利用することはなかったが（年少）、年中長のカードにあこがれを持ち、自ら色々なことにチャレンジする子もいた。 ▲「頑張る」ことを続けられる子と、あきらめてしまったり、頑張る習慣が身につかなかったりする子が極端である。	A	
	いろいろな運動遊びを紹介する	B	○年中児が行うとび箱、マット運動、フラフープ等個々に見た後、クラスの中で行った。見てやってみたかった気持ちが大きかったようで、意欲的だった。 ○目標のカードを合格している子へは、新しい技を紹介し、挑戦するよう促すことができた。 ▲リズム遊びを含め、もう少し体を使った運動や、基礎となる動きを取り入れることができたよかった。 ▲ドッジボールが好きな学年だったので、色おにやドロケイなどももっとやってみたかった。	B	十分にやってもらっていると 思う。様々なことをやってもらえることは嬉しいので、リズム遊びにも期待したい。
	食に関心をもたせ、マナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	○まだ3～4歳で一人一人食べる量、咀嚼、飲み込むことに違いがあるので、個々に合わせて食事の量を調整した。苦手な食材が多い子どもに関しては、一口食べたら褒め、自信を持たせた。 ○食事中には座り方を伝えたり、カードを利用して完食を目指したりするようにした。 ○苦手なものを一口はいただくこと、それができなければ匂いを嗅いでみようとしたこともあり、少しずつではあるが、食に関心は持てたようだ。 ○食べるときの姿勢や食べ方に気を付けて食べるように伝え、よい姿勢やはしの持ち方ができるようになった。 ▲昨年に比べると食事面での成長は著しいようだが、食に興味がない子もおり、食事の指導が難しかった。	B	給食とお弁当があるので、バランスが良い。以前は箸だけだった時があったので、年長は「箸だけの日」を作ってほしい。
	友達が少ない子や、孤立しがちな子の支援を心がける	B	○保育者が意図的に手をつないでスキンシップをしたり、子どもたちに「○○ちゃんを連れてきて」「一緒にやってあげて」など、安心するような声かけ等を行ってきた。 ○「○○ちゃんと○○くんはこういうところが似ているね」など声かけを工夫して、仲間意識が持てるようにした。 ▲無理矢理に仲よくすることはどうかとも思うが、全員で仲良くするときもある。 ▲数か月たっても友達の輪の中に入れず、遊びを傍観している子がいた。保育者と一緒に「入れて」と言うとう安心して遊んだが、保育者が抜けるとまた孤立してしまうことが多かった。	B	指導に心がけていただき、ありがたい。
	継続して運動に取り組むような工夫をする	B	○2学期の後半から3学期にかけて、同じ運動（鉄棒、岩登り等）をクラス全体で行うようにした。 ○なわとびカードが終わった子は二重跳びに挑戦したり、ドッジボールが好きな子が他学年と一緒に楽しんだりしていた。 ○自由遊びや朝の運動の後、個々の様子を見ながら全員が安心して取り組める運動を中心に行った。	A	

令和7年度に向けての改善策

上記以外の意見(抜粋)

☆新型コロナウイルス対応が緩和された中、行事等の復活と精選を図ってきた取組が、今年度ではほぼ落ち着いた。
一方、次年度は園児数の大幅な減少により、クラス数が減る。それにともなって職員数も減ることになるため、一人一人の業務量の増加が懸念される。職員の業務の精選化、効率化を図っていきたい。

☆本園の大きな強みとして、運動面の取組の充実が挙げられる。保護者から強い支持を得ており、今後も継続して進めていきたい。

☆昨年度に続いて、重点目標を「やさしい心を育て、遊びの中で力をつけよう」として、取り組んできた。この目標については、大枠を継承しつつも、次年度は育てたい子ども像をより明確にした文言にすることで、重点を明確にした運営につなげていきたい。

☆園児数の減少により、園の経営はこれまで以上に効率化を図らなければならない。一方で、園としての目標・目的を見失うことなく、保護者の要請に応えることのできる園であることを目指していく。

- ・給食に関しては、箸を使って食べる機会を増やすこと、給食の量が年長児にとって十分かなどを検証してほしい。
- ・通信やお知らせなど、ペーパーレスの取組が進むとよい。
- ・あすなる幼稚園のよさは、子どもをかわせている保護者は十分に感じている。未就園児をもつ保護者にもその良さが伝わることを願っている。園としても、周知の工夫・努力を進めてほしい。